令和４年度国立市市民表彰 社会福祉功労

人生１００年時代

囲碁で広がる地域との繋がり

増川　清一郎（ますかわ　せいいちろう）

平成１５年、福祉会館の「くにたち囲碁クラブ親睦会」に入会。平成２５年には会長に就任され、現在では９０名に上る国立の高齢者囲碁愛好会員のため、献身的に環境を整え、楽しく囲碁が打てるように努力を続けられております。

囲碁をはじめられたきっかけと「くにたち囲碁クラブ親睦会」に入会されたきっかけを教えてください。

若い頃、会社の独身寮で先輩が囲碁対局をしているのを見たのがきっかけで、同期の友人と始めました。

在職中は趣味の尺八、麻雀等に時間をとられ囲碁は疎かになりましたが、定年退職後は時間にゆとりができ、福祉会館に囲碁クラブがあることを知り入会しました。

囲碁クラブ親睦会ではどのような活動をされていますか。

福祉会館の囲碁クラブ親睦会は会員がコロナ前に比べると大幅に減少しましたが、それでも９０名程の会員がおり火曜日、祭日を除いては午後１時から４時半まで２階の娯楽室において対局を楽しんでいます。

コロナ前には市内の小学校・中学校からお声がかかり、子どもたちに囲碁の指導を通じて礼儀作法や楽しさを伝え、世代を越えた囲碁を楽しむ機会もありました。

また毎週金曜日午前中には初心者の指導を行っており、年間６回の定例囲碁大会では、日頃の対局の成果を皆さんが存分に発揮されています。

初心者の囲碁の指導をしている中で意識していることはありますか

クラブ活動は日々賑わいをみせていますが、棋力（きりょく）が上の方も多く、初心者の中には入会してもあまりお顔をみせなくなってしまう方もいます。それを防ぐために初心者指導をはじめたら大変ご好評で、毎回１５名もの方が指導を受ける組と、初心者同士での対局組に分かれて囲碁を楽しまれ、日頃のクラブ活動にも足を運んでくれるようになりました。

初心者にはご高齢の方も多く、数回指導を受けたからといってすぐに碁を打てるわけではないので、優しく根気よく、また理論付けて説明をするように心がけています。

親睦会の活動を通して印象に残っていることを教えてください。

年６回の定例囲碁大会では、皆さんが日頃の成果を発揮する場として盛り上がりを見せています。初心者から上級者まで、時間制限のある中真剣に対局し、交流と親睦をはかり、活躍している姿をみると嬉しくなります。大会は参加して実績を残すと段が上がっていくため、皆さんの向上心にも繋がっていると感じます。

また、市内の小・中学校を訪れていた時には、もちろん子どもたちに指導をする側ですが、私自身が子どもたちから学ばせてもらうことも多く、必死についていっていました。１５年前に指導をしていた生徒が、今ではプロの卵くらいにまで成長し、とても感慨深かったです。

囲碁の魅力を教えてください。

○老若男女年代を問わず幅広い層の人との交流ができます。

○最近は海外の囲碁愛好者とはネット碁対局も盛んで国際交流もできます。

○頭脳ゲームとしてボケ防止になります。

○囲碁は正式には棋道（きどう）といわれ礼儀作法を重んじます。

○ルールがシンプルですが、非常に奥深いのが魅力です。

地域における囲碁の今後についてどのようにお考えですか。

多摩地区２８市町対抗囲碁団体戦で当クラブからも多数の選手を参加させ、優勝を目指したいと思っています。

◀増川氏の囲碁対局の様子